



2013 年度精神看護学セミナー

シンポジウム

精神疾患患者ががんになった時 ～私たちには何ができるのか～



皆さんは、“がん”を併発した精神疾患患者さんに出会った経験はお持ちでしょうか。インフォームドコンセントはどのようにしたらよいのか、がんの治療はどのような医療機関で行うのがよいのか、どのようにしたらご本人の意思を尊重した看取りができるのかなど、様々な思いをもちながら、ケアに当たられた方も多いと思います。

今回は、そのような患者さんに様々な場面で関わってきた看護師の方々からお話を頂き、どのようなケアが望まれているのかや、課題となっていることは何かなどを共有していきたいと思います。また、がん看護や精神看護の専門看護師にも登場して頂き、最新の疼痛緩和方法や、患者の権利擁護、意思決定のあり方などについて情報提供をして頂く予定です。

年度末のお忙しい時期かと思いますが、多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

日時：2014年3月15日（土） 13:30～16:30

場所：福島県立看護学部 8号館（旧看護学部棟）N301 教室

シンポジスト：

■佐藤 忠氏（福島県立矢吹病院）

精神科病棟で死を迎えたがん患者への看護師の関わり

■佐藤郁美（坪井病院）

ホスピス病棟における精神疾患患者の看取り

■大葉直樹氏（東京都立松沢病院）

身体合併症外科病棟におけるがん患者への看護

プレゼンター：

■田中久美子氏（神奈川県立がんセンター がん看護 CNS）

最新の疼痛緩和ケアについて

■加藤 郁子氏（福島県立医科大学看護学部 精神看護 CNS）

精神疾患患者の意思決定を支えるアプローチについて

申し込み：2月28日（金）までにメール（k-hoso@fmu.ac.jp）もしくは

FAX（024-547-1861）でご連絡下さい

福島県立医科大学看護学部精神看護学担当

大川貴子 濱尾早苗 加藤郁子 細川香苗